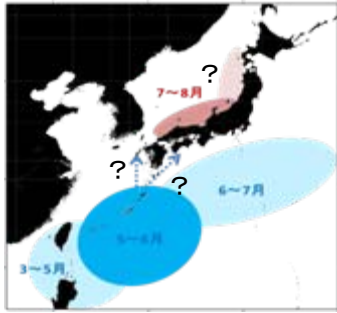


クロマグロ稚仔魚分布調査

資源管理部 研究員 堀江 昌弘

目的

太平洋クロマグロの産卵場所・産卵時期及び生まれた稚仔魚の回遊経路を把握し、太平洋クロマグロ資源の適正管理・持続的利用に役立てる。



太平洋クロマグロの産卵場概念図

- 適切な資源管理のためには、産卵場所・産卵時期及び回遊経路等を把握し、資源量をモニターすることが必要不可欠。
- しかし、太平洋クロマグロの産卵場・産卵時期は不明な点が多く、また、ふ化後の稚仔魚がどのような経路で漁場に回遊してくるのかも不明。
- そこで、国際水産資源研究所を筆頭とする国の4研究機関、水産大学校及び関係6県が協力し、それらの謎を解明する調査に着手。

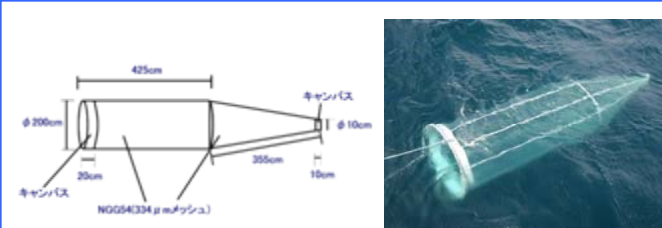
調査参画機関：(独)水産総合研究センター 国際水産資源研究所・中央水産研究所・日本海区水産研究所・西海区水産研究所、水産大学校、石川県、鳥取県、島根県、山口県、鹿児島県、沖縄県

クロマグロ仔魚分布調査

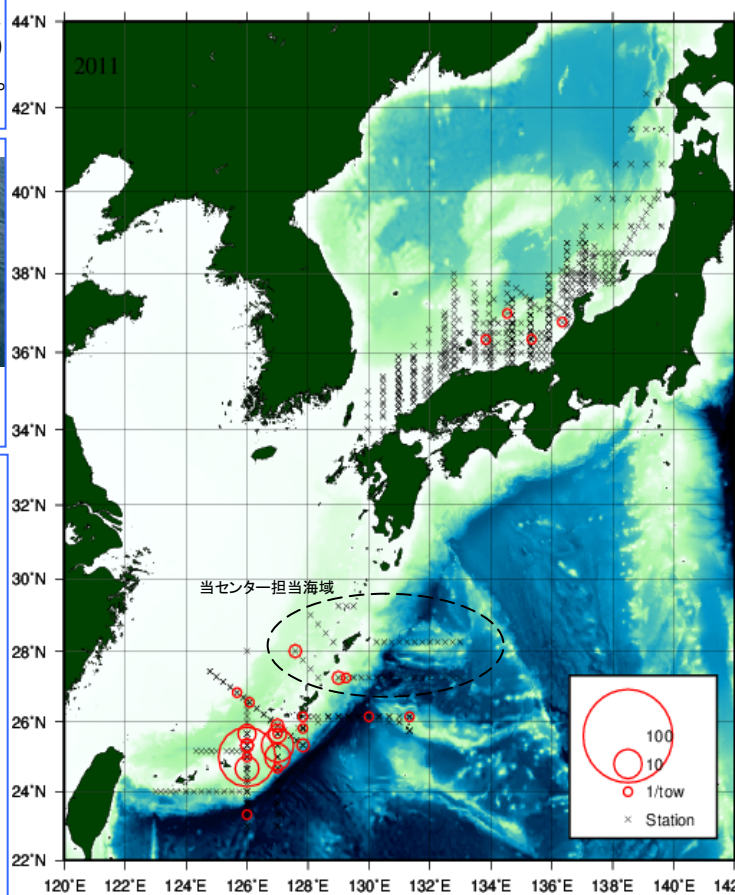
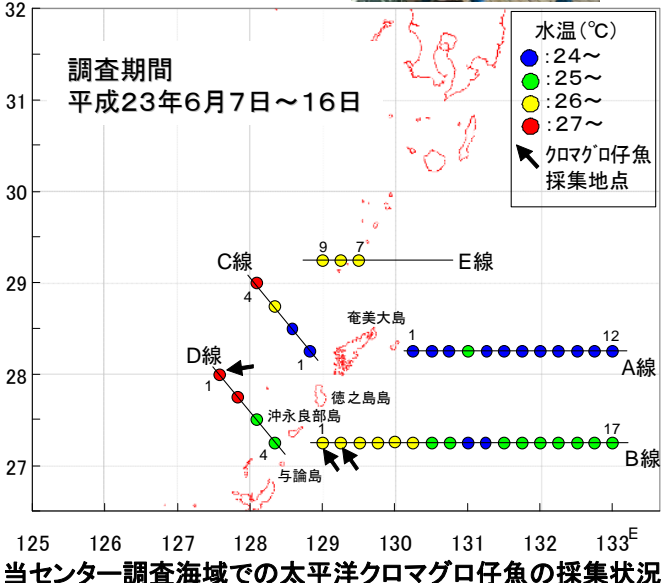
～クロマグロの仔魚を探して～

*仔魚とは……

まだ体の構造(骨格、鰭)が未完成の個体。ふ化後およそ20日未満、体長1cm未満の個体。



仔魚採集に用いた直径2mリングネット。
海面を10分間、約1.5ノットで曳網



本調査で採集された太平洋クロマグロ仔魚の分布
○は1曳網当たり採集尾数

太平洋クロマグロ仔魚101尾(うち当県海域5尾)の採集に成功！！

太平洋クロマグロ仔魚を、宮古島から沖縄本島にかけての海域で多数採集。また、日本海の隠岐から能登半島にかけての海域でも採集。

(本ポスターを作成するに当たり、(独)水産総合研究センター国際水産資源研究所よりデータや図等を提供していただきました。)

クロマグロ稚魚分布調査

～クロマグロの稚魚を探して～

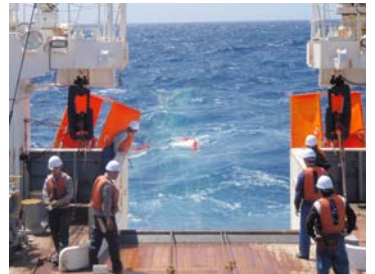


* 稚魚とは.....

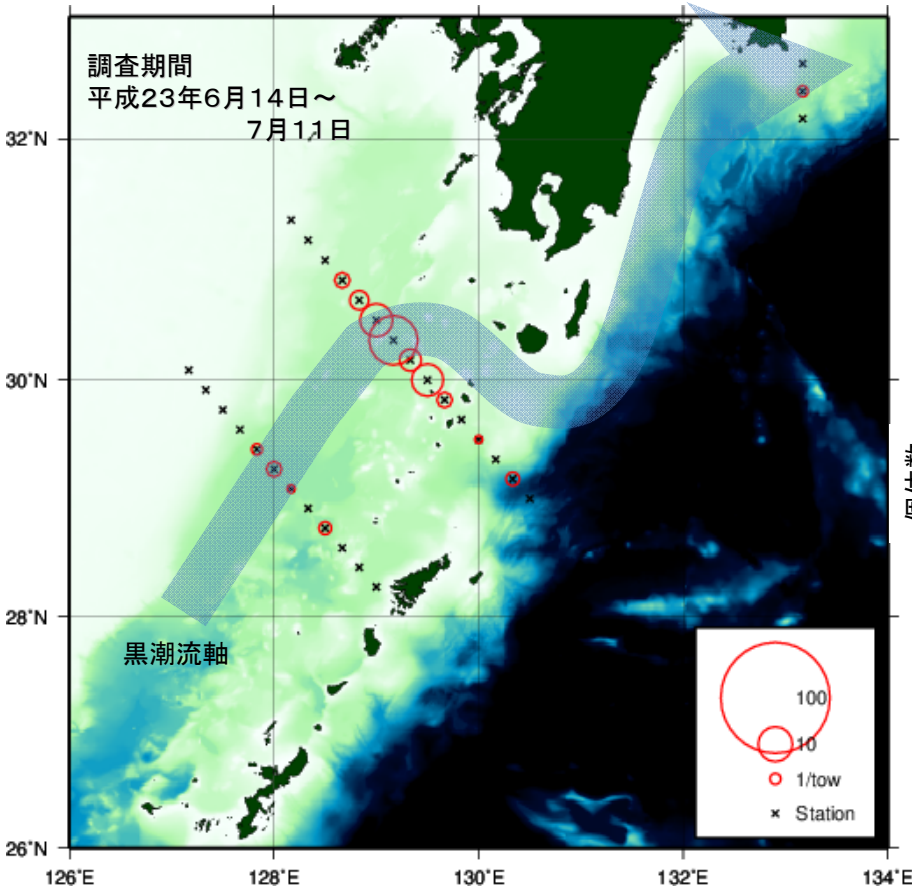
体長1～15cm程度の漁獲対象となる前の魚。鰭が完成して遊泳力も強い。



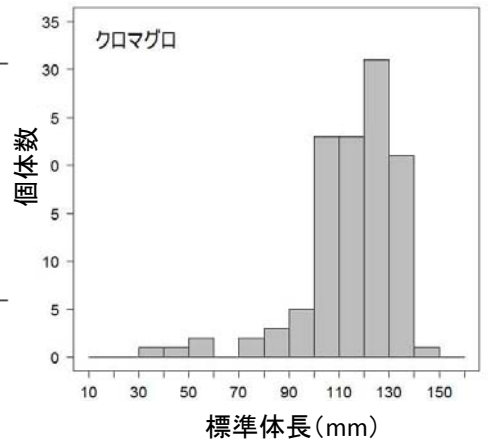
稚魚分布調査を行った
国際水産資源研究所の俊鷹丸



稚魚の採集には、黒潮流域でも5ノットで曳網可能な表中层トロール網を使用。



本調査で採集された太平洋クロマグロ稚魚の分布
○は1曳網当たり採集尾数



採集された太平洋クロマグロの標準体長
(体長30～150mm, 113尾)

当県南西諸島沖の黒潮流軸付近で、漁獲対象となる直前の太平洋クロマグロ稚魚の採集に初めて成功！！

これらの成果は、資源の管理手法の開発及び資源の動向をできるだけ早期に把握する手法の開発に役立て、太平洋クロマグロ資源の持続的利用のための管理方策の策定に活用されます。